

2018年度 第2四半期 業績概要

注意事項

- **当社は、2017年度より決算期を3月20日から2月末日に変更しました。**
本資料内、2018年上期(3-8月期)業績値と比較対象となる2017年上期(4-9月期)業績値の期間が異なっているため、前年同期比の表記は〈参考値〉として記載しています。
- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合がありますので、ご了承ください。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2018年3月1日～2018年8月31日)

1. 2018年度上期 連結決算

- 2018年度上期実績(連結・セグメント別)
- 主要事業の概要
(モーションコントロール, ロボット, システムエンジニアリング)
- 事業セグメント別売上高構成比
(2017年度上期 → 2018年度上期)
- 仕向先別売上高 / 売上高構成比
(2017年度上期 → 2018年度上期)
- 営業利益増減要因分析
(2017年度上期 → 2018年度上期)
- 2018年度6-8月期における取り組み

2. 2018年度下期・通期 連結決算見通し

- 2018年度通期 見通し(連結・セグメント別)
- 営業利益増減要因分析
(2017年度 → 2018年度 予想)
- 2018年度下期における取り組み

3. 参考資料

- 設備投資, 研究開発費,
為替レート・感応度
- B/S 構造の推移
- 連結売上高・営業利益推移
- 四半期連結売上高推移
- 四半期連結受注推移
- 主要生産拠点

セグメント別事業概要

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ A Cサーボモータ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ

など



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接, 塗装用途向け
 - FPD搬送, ハンドリング用途向け
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオ・メディカル用途向けロボット
- ・ 人協働ロボット

など



新小型ロボット
MOTOMAN-GP8

新型7軸アーク溶接
ロボット
MOTOMAN-AR1440E



人協働ロボット
MOTOMAN-HC10DT
ハンドキャリータイプ

システムエンジニアリング

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
- ・ 上下水道用電気計装システム
- ・ 大型風力発電用電機品
- ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ

など



大型風力発電用
発電機とコンバータ



連続鋳造設備



パワーコンディショナ
Enewell-SOL P2H



上下水道用
電気計装システム

その他

【主要製品】

- ・ EV用モータドライブシステム
- ・ 物流サービス

など

1. 2018年度上期 連結決算

2018年度 上期実績（連結）

- 上期予想には未達も、増収増益を達成（上期としては過去最高）

	2018年度 上期 (3-8月期) 実績	2017年 上期 (4-9月期) 実績	前 年 同 期 比 〈参考値〉		2018年度 上期 (3-8月期) 予想
			増減額	増減率	
売 上 高	2,482億円	2,291億円	+191億円	+8.3%	2,585億円
営 業 利 益	305億円	278億円	+27億円	+9.7%	333億円
経 常 利 益	306億円	275億円	+31億円	+11.4%	338億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	261億円	211億円	+50億円	+23.6%	265億円

2018年度 上期実績（セグメント別）

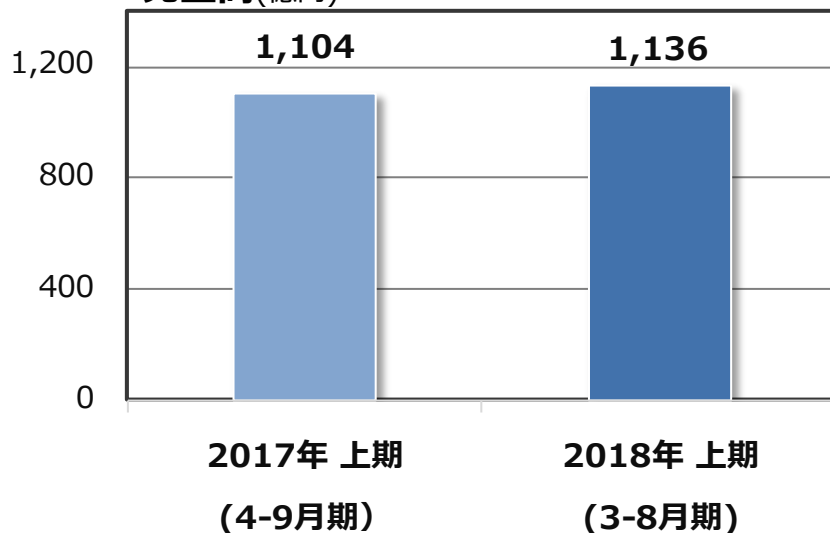
- モーションコントロール・ロボットを中心に売上高・営業利益ともに伸長
- システムエンジニアリングは構造改革を進めたことで、営業損益が改善

（単位：億円）

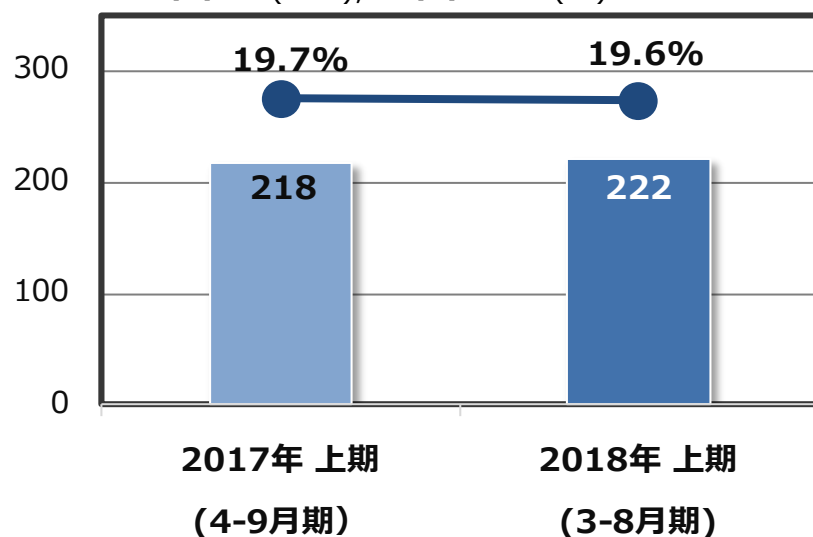
	2018年度 上期		2017年度 上期		前年 同 期 比 〈参考値〉	
	(3-8月期) 実績	利益率	(4-9月期) 実績	利益率	増減額	増減率
売 上 高	2,482		2,291		+191	+8.3%
モーションコントロール	1,136		1104		+32	+2.9%
ロボット	882		804		+78	+9.6%
システムエンジニアリング	277		282		▲5	▲1.6%
その他	188		101		+86	+85.3%
営 業 利 益	305	12.3%	278	12.1%	+27	+9.7%
モーションコントロール	222	19.6%	218	19.7%	+4	+2.0%
ロボット	92	10.5%	86	10.6%	+7	+7.8%
システムエンジニアリング	▲5	▲1.8%	▲18	▲6.3%	+13	-
その他	6	3.1%	▲1	▲0.5%	+6	-
消去または全社	▲10	-	▲7	-	▲3	-
経 常 利 益	306	12.3%	275	12.0%	+31	+11.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	261	10.5%	211	9.2%	+50	+23.6%

主要事業の概要_モーションコントロール

売上高(億円)



営業利益(億円), 営業利益率(%)



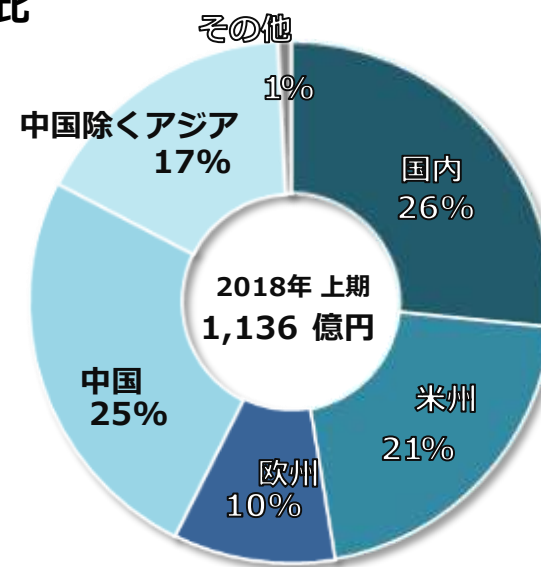
【売上高】

- ACサーボは中国のスマートフォン関連需要の一服感に加え、半導体関連の設備投資が期後半から弱含み
- インバータは中国の環境規制強化に伴う省エネ化需要や米国におけるオイル・ガス関連需要が底堅く推移

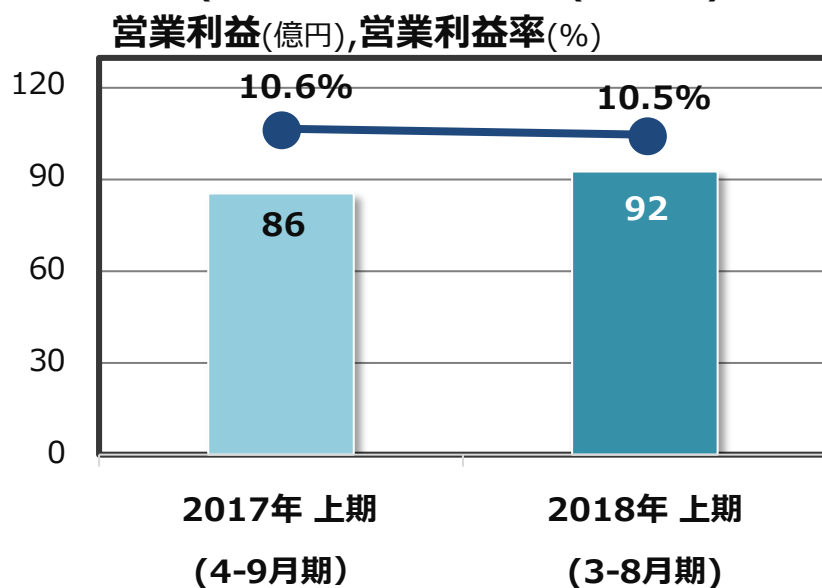
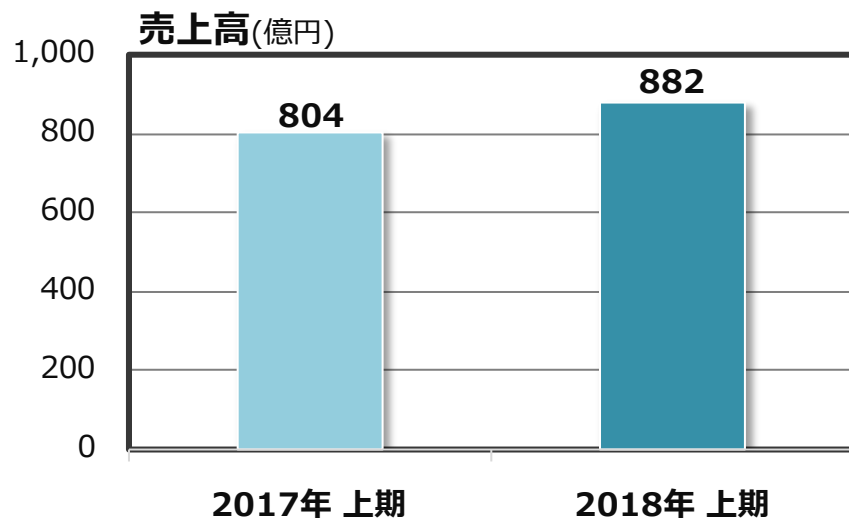
【営業利益】

- ACサーボが中国を中心に伸び悩んだ一方、インバータがグローバルで好調だったため、営業利益は底堅く推移

仕向先別売上高構成比



主要事業の概要_ロボット



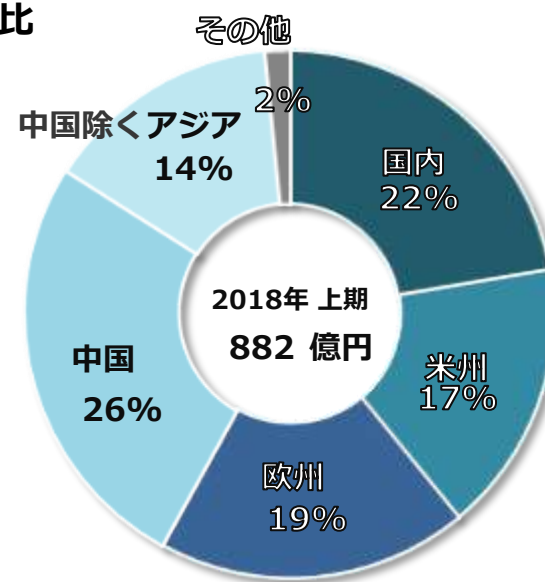
【売上高】

- 自動車関連向けは日本, 欧州, 中国などで好調
- 一般産業分野では、生産自動化ニーズが継続するなかスマートフォン関連需要は一服感

【営業利益】

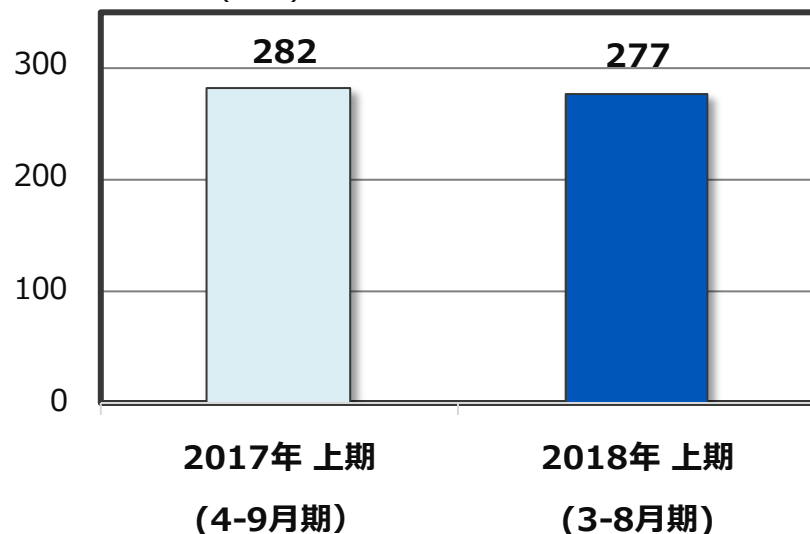
- 売上高の増加に伴い営業利益は増加

仕向先別売上高構成比

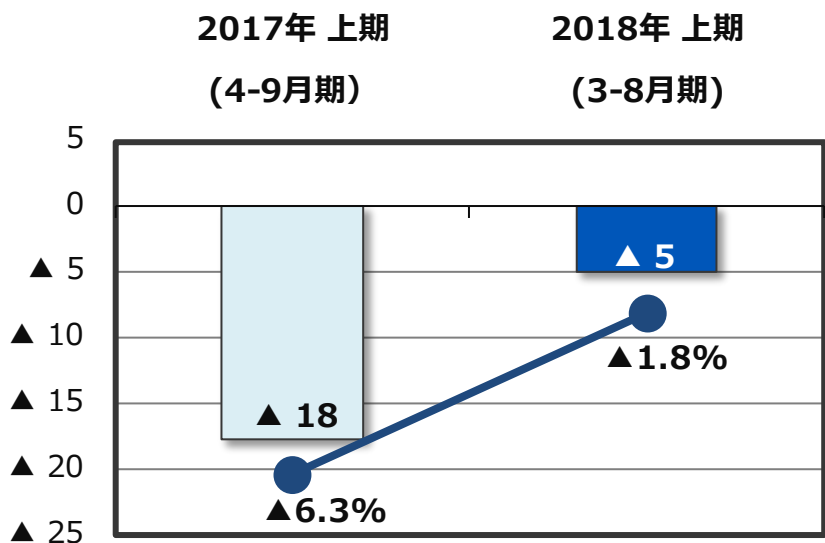


主要事業の概要_システムエンジニアリング

売上高(億円)



営業損益(億円), 営業損益率(%)



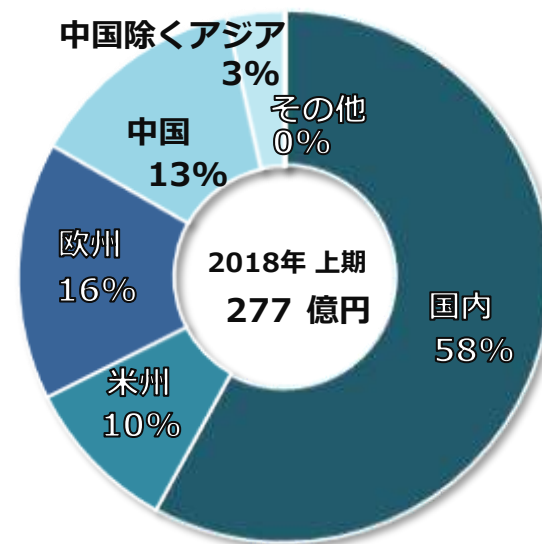
【売上高】

- 鉄鋼・社会システムは、一部の国内プロジェクトで進捗影響があったものの、底堅く推移
- 環境エネルギー分野では、太陽光発電関連が低迷も大型風力発電関連が欧州で伸長

【営業損益】

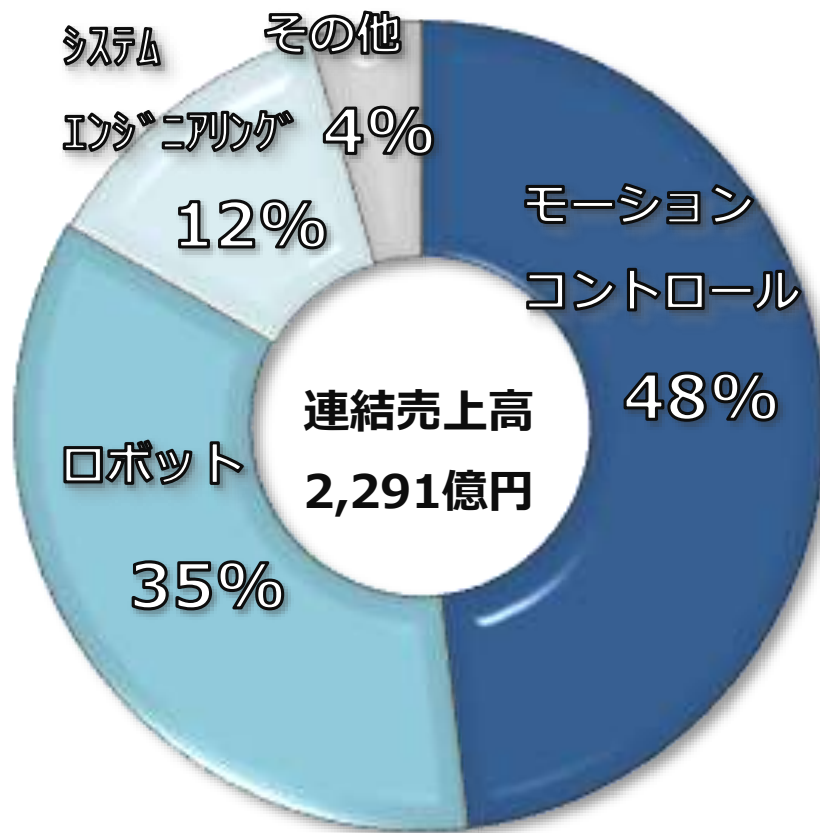
- 環境エネルギー分野を中心に構造改革を進め、収益性は改善

仕向先別売上高構成比

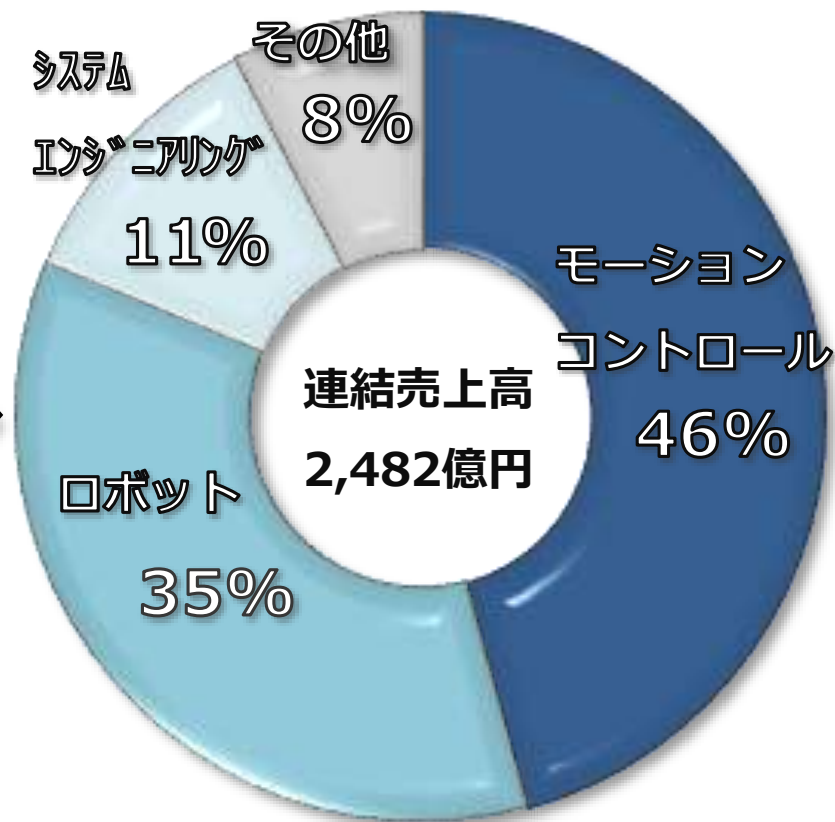


事業セグメント別売上高構成比

2017年度 上期 (4-9月期)



2018年度 上期 (3-8月期)



仕向先別売上高（2017年度上期 → 2018年度上期）

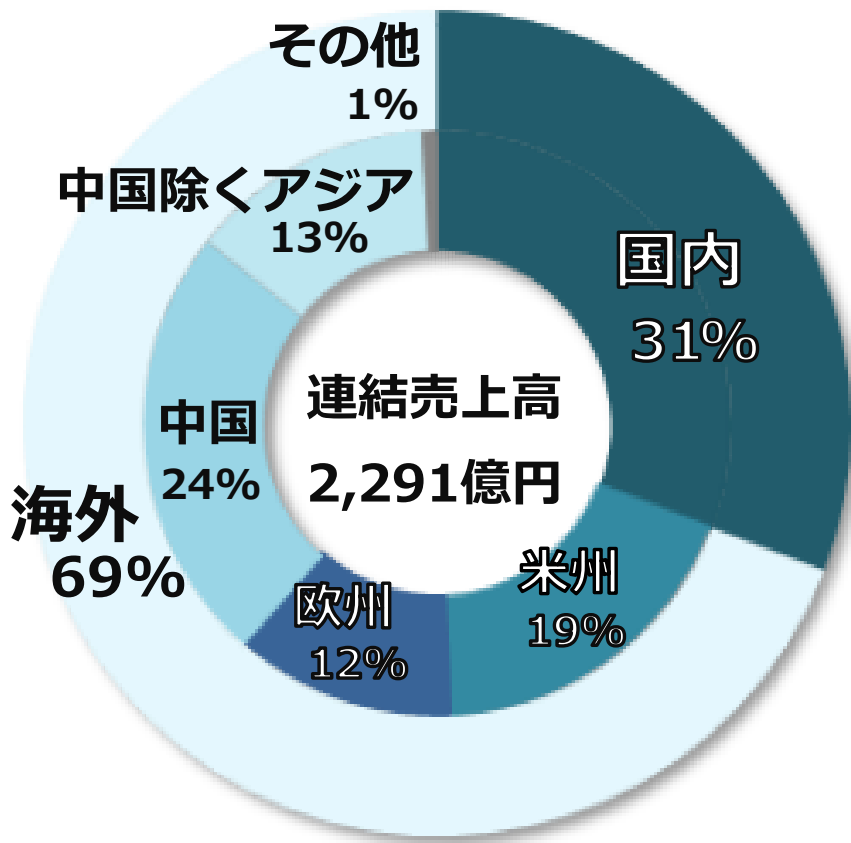
● 米州を除く全ての地域で売上高は伸長

	2018年度 上期(3-8月)	2017年度 上期(4-9月期)	前年同期比 〈参考値〉	
			増減額	増減率
売上高	2,482	2,291	+191	+8.3%
国内	786	706	+80	+11.4%
海外	1,697	1,586	+111	+7.0%
米州	410	424	▲14	▲3.2%
欧州	325	279	+46	+16.4%
中国	587	555	+32	+5.8%
中国除くアジア	353	309	+44	+14.3%
その他	21	18	+3	+15.0%

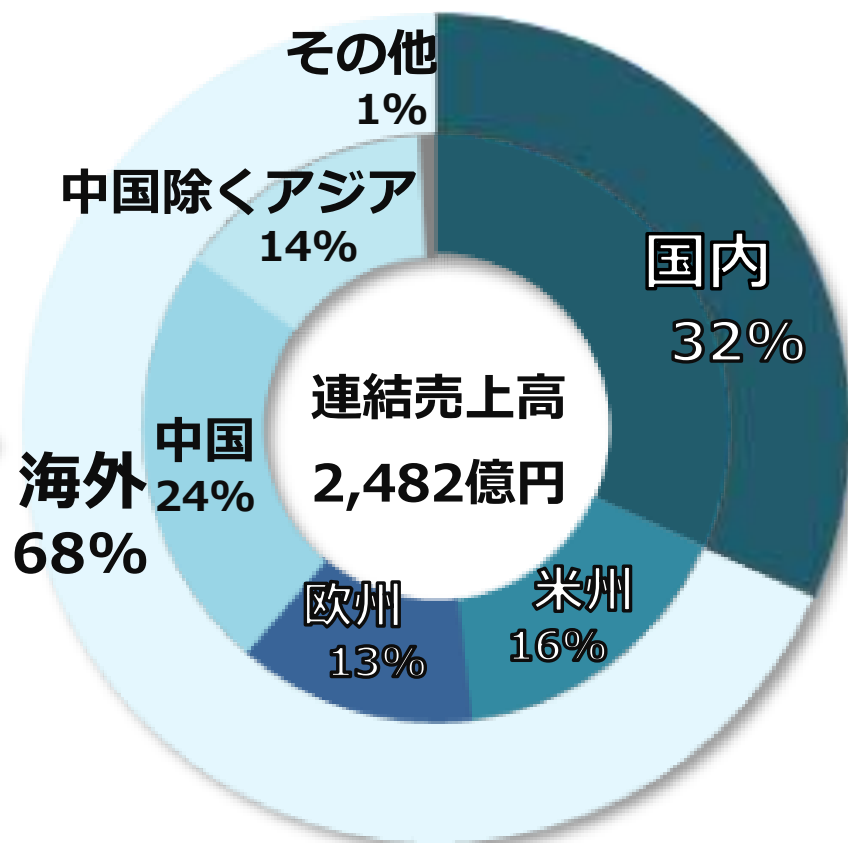
[注] その他には、南アフリカ、オーストラリア等を含む

仕向先別売上高構成比

2017年度 上期 (4-9月期)

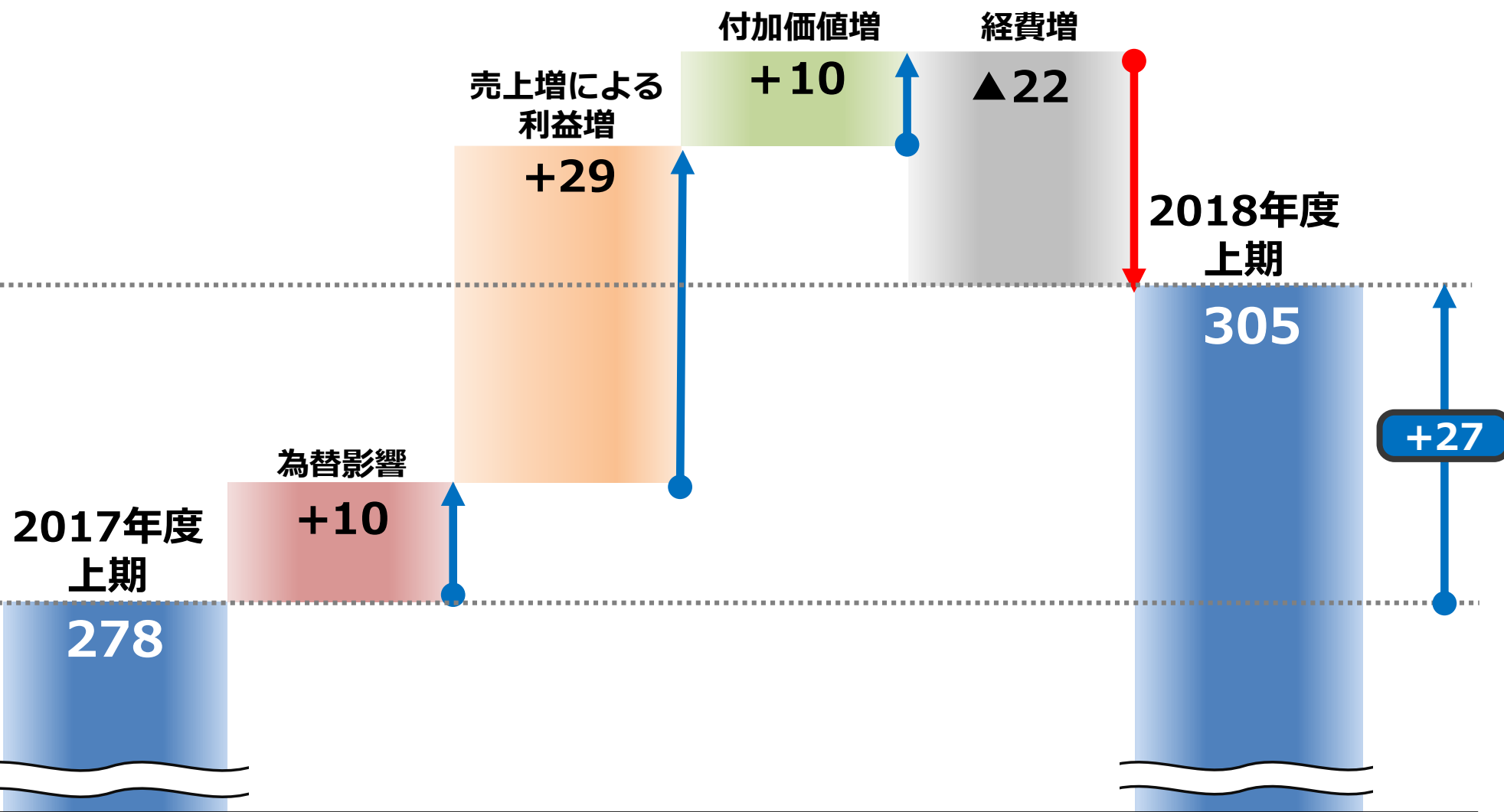


2018年度 上期 (3-8月期)



営業利益増減要因分析（2017年度上期 → 2018年度上期）

（単位：億円）



2018年度6-8月期における取り組み

➤ コア事業の収益力強化

➔ 中国 安徽瑞祥工業との資本提携 (18年7月)

- ・ 自動車(EV含む)向け生産設備の販売拡大に向けた協業開始

➤ 開発力・生産力・販売力の継続的進化

➔ i³-Mechatronicsを実現する製品・ソリューションのリリース

- ・ ソフトウェアツール「YASKAWA Cockpit」提供開始 (18年6月)
- ・ ACサーボとロボットの統合的な制御を実現するソリューションの提供開始 (18年8月)



ACサーボとロボットの統合的制御の適用イメージ

➔ 中国における生産能力拡大

- ・ 常州(ロボット生産拠点)・瀋陽(ACサーボ生産拠点)における第3工場竣工 (18年7月)



常州(上)・瀋陽(下) 第3工場外観

➤ 新規事業の拡大

➔ 食品市場における事業化確立

- ・ 野菜生産システム用装置の生産・販売を主力事業とするFAMS*の設立 (18年8月)

* Food & Agri Mechatro Solution Inc.

2. 2018年度下期・通期 連結決算見通し

2018年度 通期見通し（連結）

- 売上高・利益ともに増収増益（通期としては過去最高）
- 半導体投資の減速および中国市場の弱含みを受け、予想を下方修正

	2018年度 予想	2017年度 〈参考値ベース〉 実績	前年度比 〈参考値〉		2018年度 前回予想
			増減額	増減率	
売上高	4,980億円	4,645億円	+335億円	+7.2%	5,100億円
営業利益	590億円	571億円	+19億円	+3.3%	655億円
経常利益	600億円	583億円	+17億円	+2.9%	670億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	470億円	417億円	+53億円	+12.6%	500億円

[注] 2017年度のデータは対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値ベース〉にて記載

2018年度 通期見通し（セグメント別）

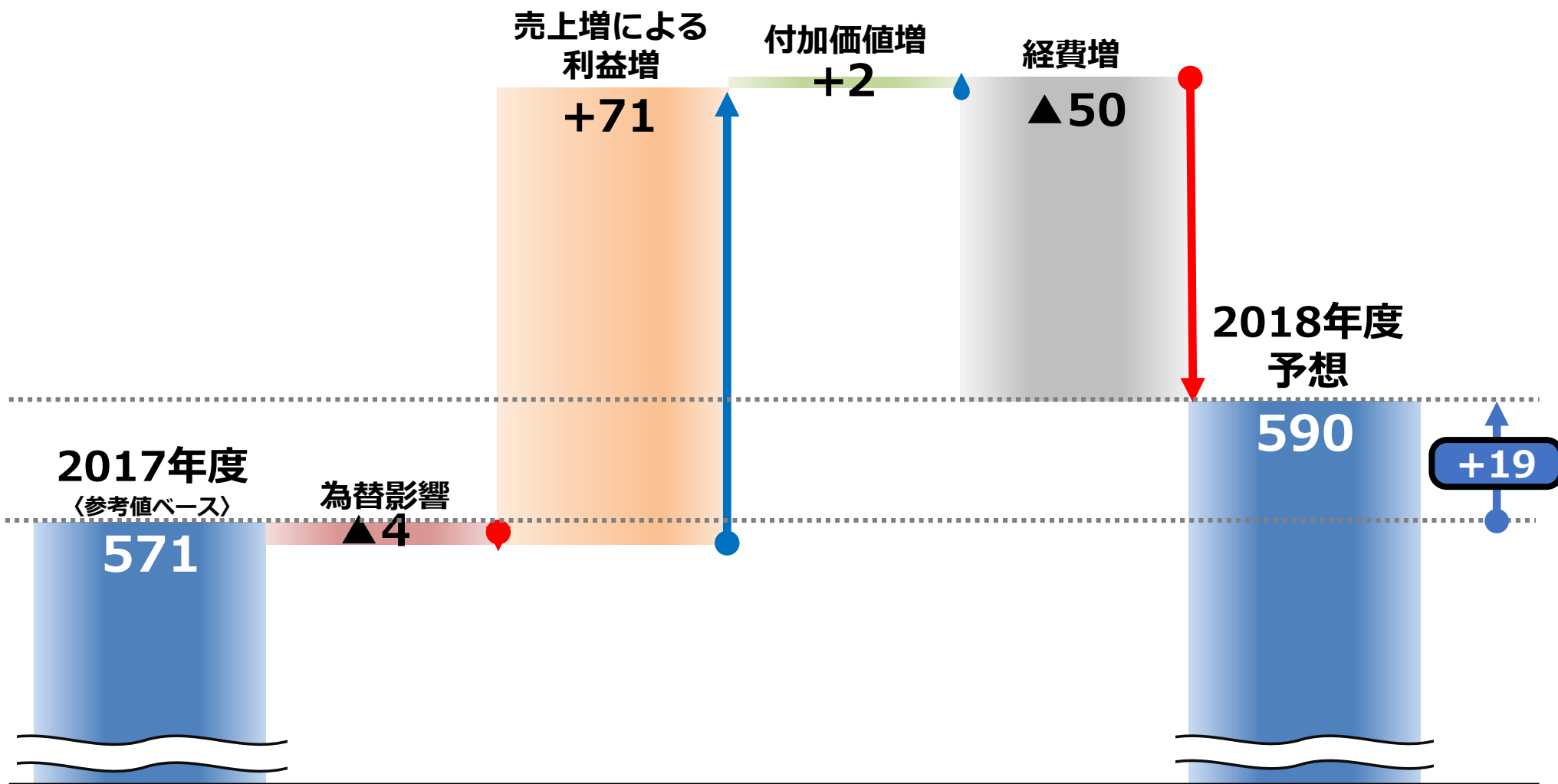
・ ACサーボの減速によりモーションコントロールを中心に予想を下方修正

	2018年度		2017年度		前年度比（参考値）		2018年度	
	予想	利益率	実績 （参考値ベース）	利益率	増減額	増減率	前回予想	利益率
（単位：億円）								
売上高	4,980		4,645		+335	+7.2%	5,100	
モーションコントロール	2,180		2,152		+28	+1.3%	2,295	
ロボット	1,850		1,668		+182	+10.9%	1,859	
システムエンジニアリング	610		613		▲3	▲0.4%	587	
その他	340		211		+128	+60.8%	359	
営業利益	590	11.8%	571	12.3%	+19	+3.3%	655	12.8%
モーションコントロール	410	18.8%	423	19.6%	▲12	▲2.9%	452	19.7%
ロボット	198	10.7%	185	11.1%	+14	+7.3%	217	11.7%
システムエンジニアリング	▲4	▲0.7%	▲21	▲3.4%	+17	-	▲2	▲0.3%
その他	6	1.9%	▲2	▲0.7%	+8	-	9	2.5%
消去または全社	▲21	-	▲14	-	▲7	-	▲21	-
経常利益	600	12.0%	583	12.6%	+17	+2.9%	670	13.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	470	9.4%	417	9.0%	+53	+12.6%	500	9.8%

〔注〕 2017年度のデータは対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値ベース〉にて記載

営業利益増減要因分析（2017年度 → 2018年度 予想）

（単位：億円）



[注] 2017年度の営業利益は対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値ベース〉にて記載

2018年度下期における取り組み (1)

➤ コア事業の収益力拡大

➔ グローバルで急速に進展する生産の自動化・高度化への貢献

- ・ 中国における3C*・ロボット・自動車・半導体など成長市場への注力
- ・ 欧米におけるオープンイノベーション(IoT関連)を活用した市場拡大

*Computer, Communication, Consumerを指す。スマートフォンなどの通信機器・家電など

➤ “i³-Mechatronics”を実現する開発力・生産力・販売力の進化

➔ 開発力の進化

- ・ i³-Mechatronicsを実現する製品/ソフトの開発加速
- ・ 欧米中でのグローバル開発力強化

➔ 生産力の進化

- ・ 「安川ソリューションファクトリ」におけるi³-Mechatronicsの実証
- ・ 中国(常州・瀋陽)・スロベニアの新工場立上げによるグローバル生産能力の増強



安川ソリューションファクトリ (イメージ図)

➔ 販売力の進化

- ・ パートナーとの連携拡大によるエンジニアリング体制強化
- ・ 安川オートメーション・ドライブの子会社化による産業用ドライブシステム領域の強化

2018年度下期における取り組み (2)

➤ 新規事業の拡大

➔ 環境エネルギー事業の黒字化

- ・ 太陽光パワーコンディショナ：新製品のリリースとシリーズ展開加速
- ・ 大型風力発電用電機品：新製品投入と競争力のあるトータルシステム提案による販売力強化
- ・ 船舶ドライブ：船舶の排出ガス規制強化に伴う拡販加速
- ・ EVドライブシステム：奇瑞安川電駆動システムの量産安定化

➔ 食品市場における事業化加速

- ・ 野菜生産・中食分野での自動化を推進

➤ デジタル経営実現に向けた取り組み加速

➔ リアルタイム経営管理システムの構築

- ・ 生産・販売・技術に関する経営データの統合化と見える化
- ・ 徹底した業務の自動化推進



船舶向けドライブ製品



EV用モータドライブシステム

3. 参考資料

設備投資,研究開発費の状況、為替レート・感応度

設備投資,研究開発費の状況

(単位：億円)

	2016年度(実績)	2017年度(実績)	2018年度(計画)
設備投資額	149.1	196.9	300.0
減価償却費	120.8	126.9	140.0
研究開発投資	179.8	190.7	210.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位：円)

	2016年度(実績)			2017年度(実績)			2018年度(想定)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期(実績)	下期	通期
対 米ドル	107.1	109.6	108.4	111.5	111.5	111.5	109.3	110.0	109.7
対 ユーロ	120.0	118.4	119.2	124.4	133.3	128.8	129.9	130.0	129.9
対 元	16.29	16.09	16.19	16.35	17.08	16.71	16.81	16.50	16.66
対 ウォン	0.093	0.095	0.094	0.099	0.101	0.100	0.100	0.100	0.100

為替感応度

(単位：億円)

	1%変動による影響額(通期,想定)	
	売上高	営業利益
米ドル	約 9.4	約 2.3
ユーロ	約 7.6	約 2.2
元	約 11.5	約 3.1
ウォン	約 3.2	約 1.9

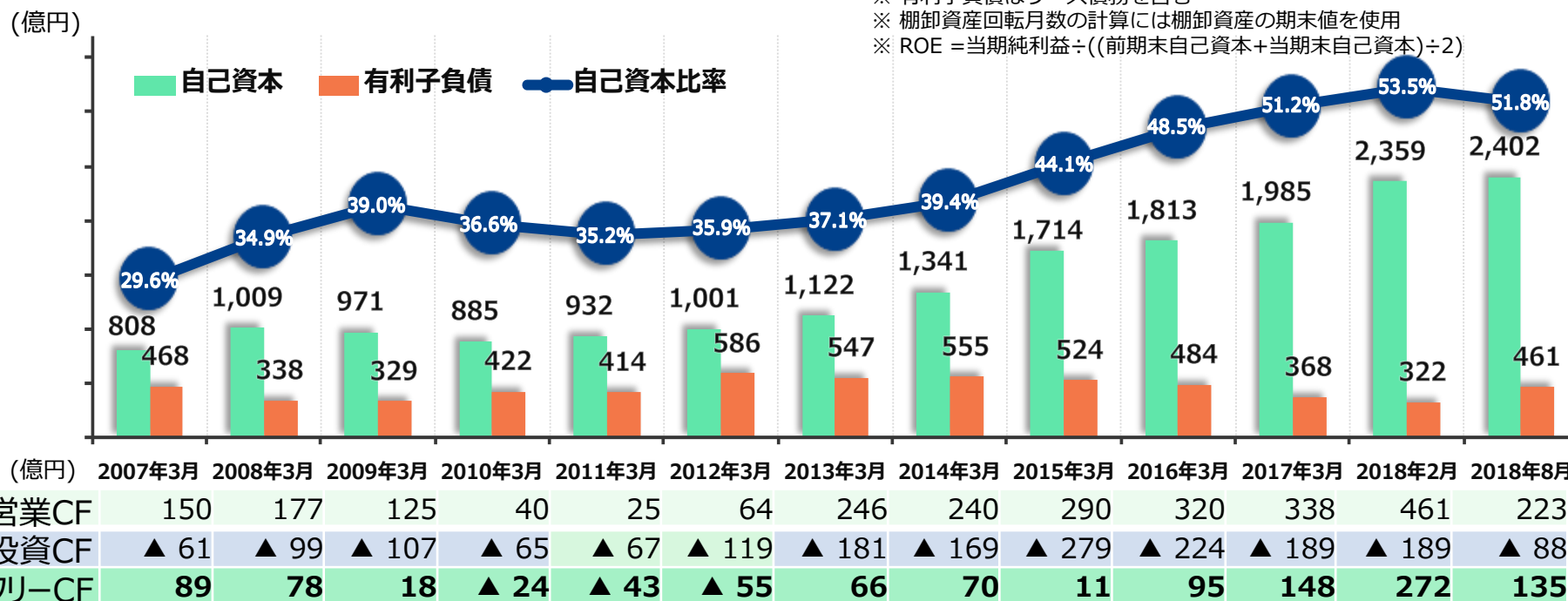
B/S 構造の推移

2018年2月28日時点

- 自己資本比率 53.5%
- 自己資本 2,359億円
- 有利子負債 322億円
- D/Eレシオ 0.14
(ネットD/Eレシオ) ▲0.04
- 棚卸資産 1,001億円
(回転月数) (2.7ヶ月)
- ROE 18.3%

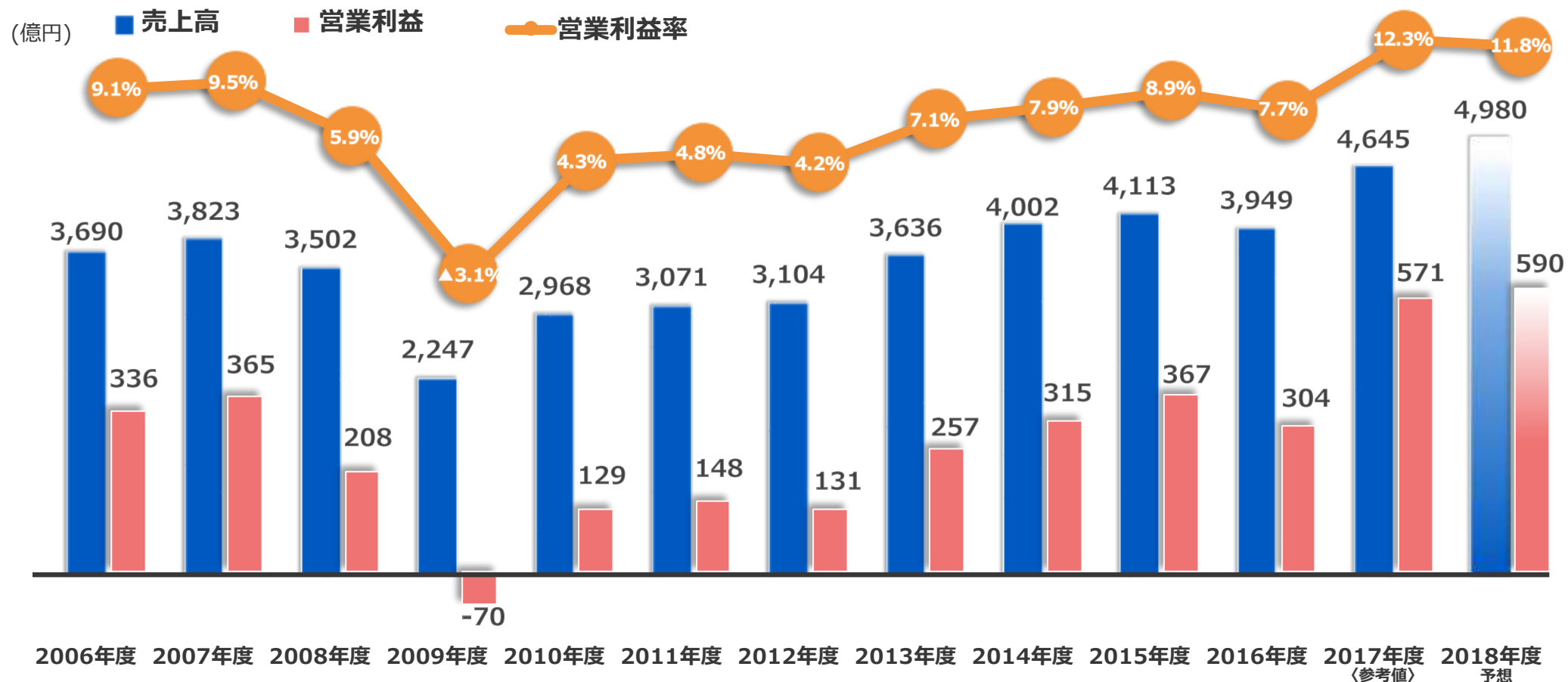
2018年8月31日時点

- 自己資本比率 51.8%
- 自己資本 2,402億円
- 有利子負債 461億円
- D/Eレシオ 0.19
(ネットD/Eレシオ) ▲0.02
- 棚卸資産 1,082億円
(回転月数) (2.6ヶ月)



※ 有利子負債はリース債務を含む
 ※ 棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用
 ※ ROE = 当期純利益 ÷ ((前期末自己資本 + 当期末自己資本) ÷ 2)

連結売上高・営業利益推移（2006年度～2018年度予想）



ダッシュ 100

Challenge 100

Realize 100

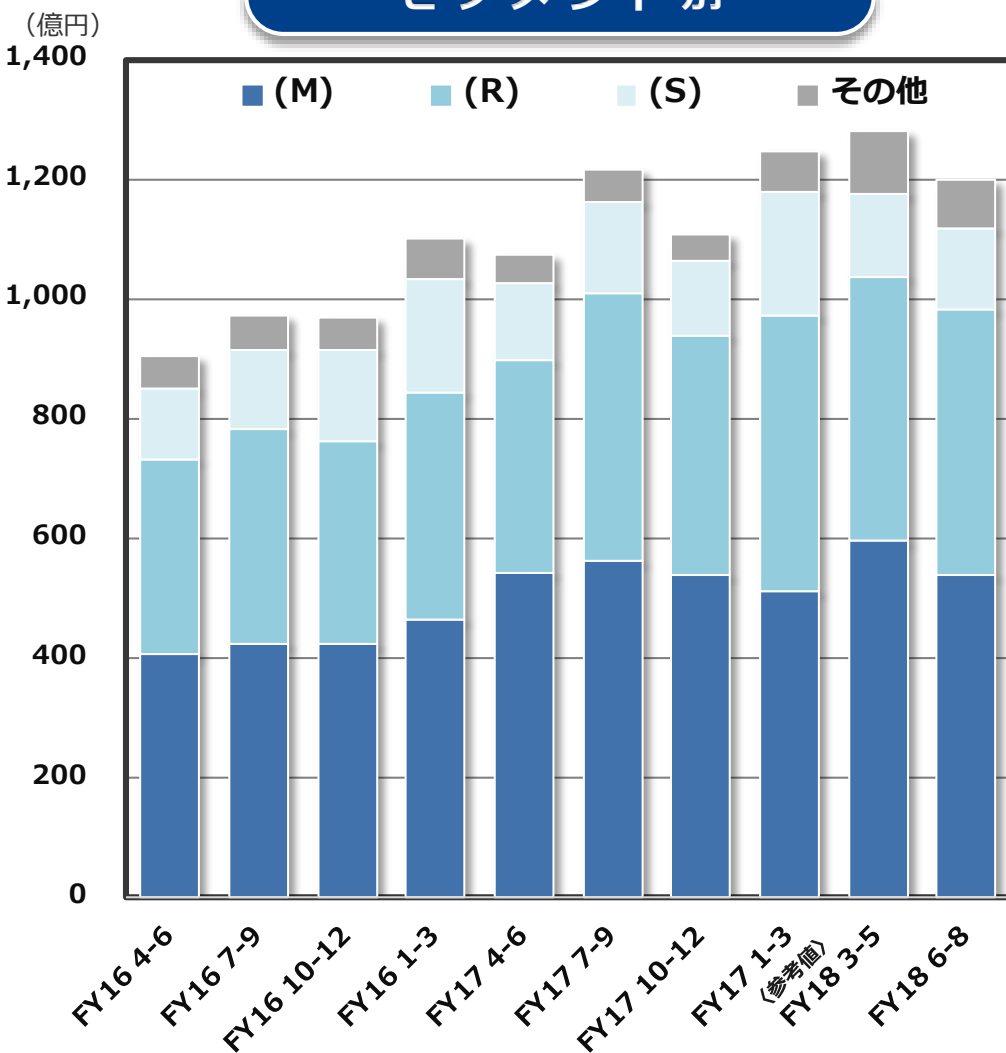
Dash 25

中期経営計画

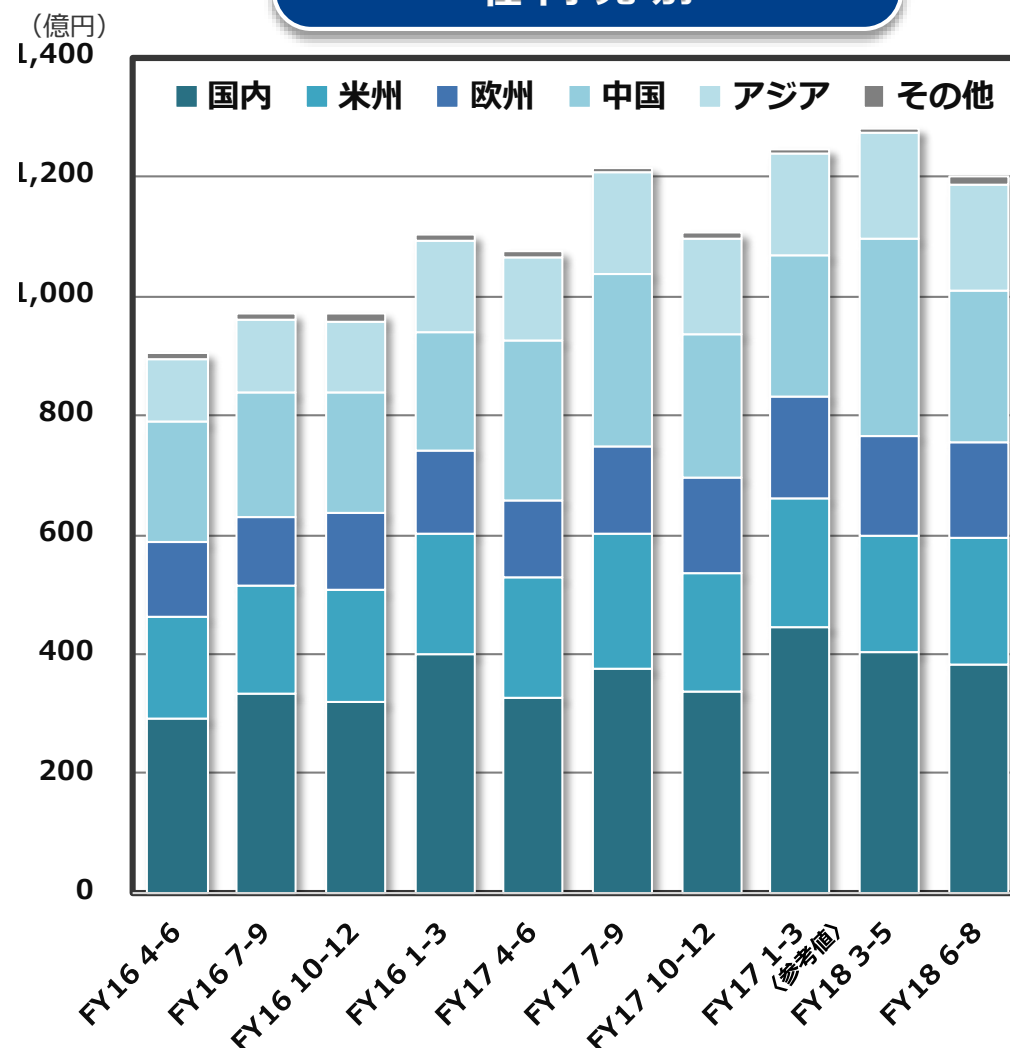
※ 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

四半期連結売上高推移

セグメント別



仕向先別



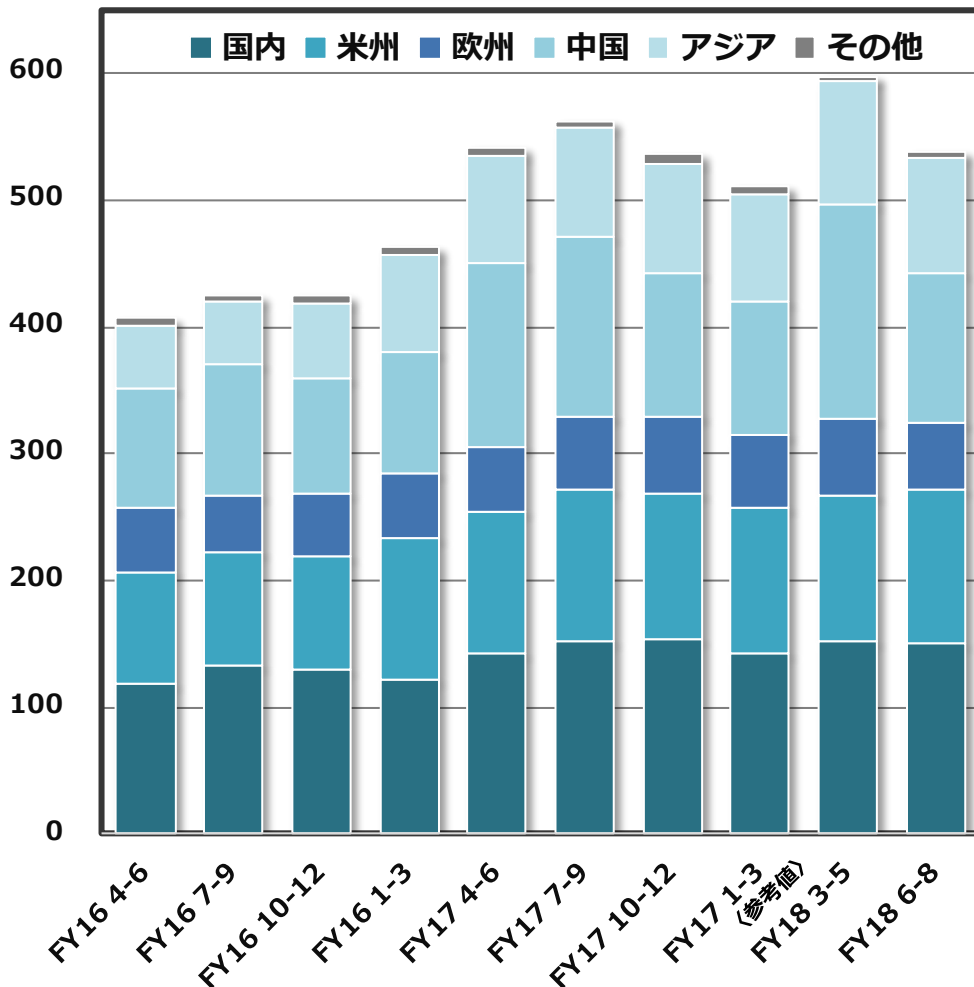
[注.1] FY2017 1-3月期のデータは、対象期間を2017年12月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

[注.2] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

四半期連結売上高推移

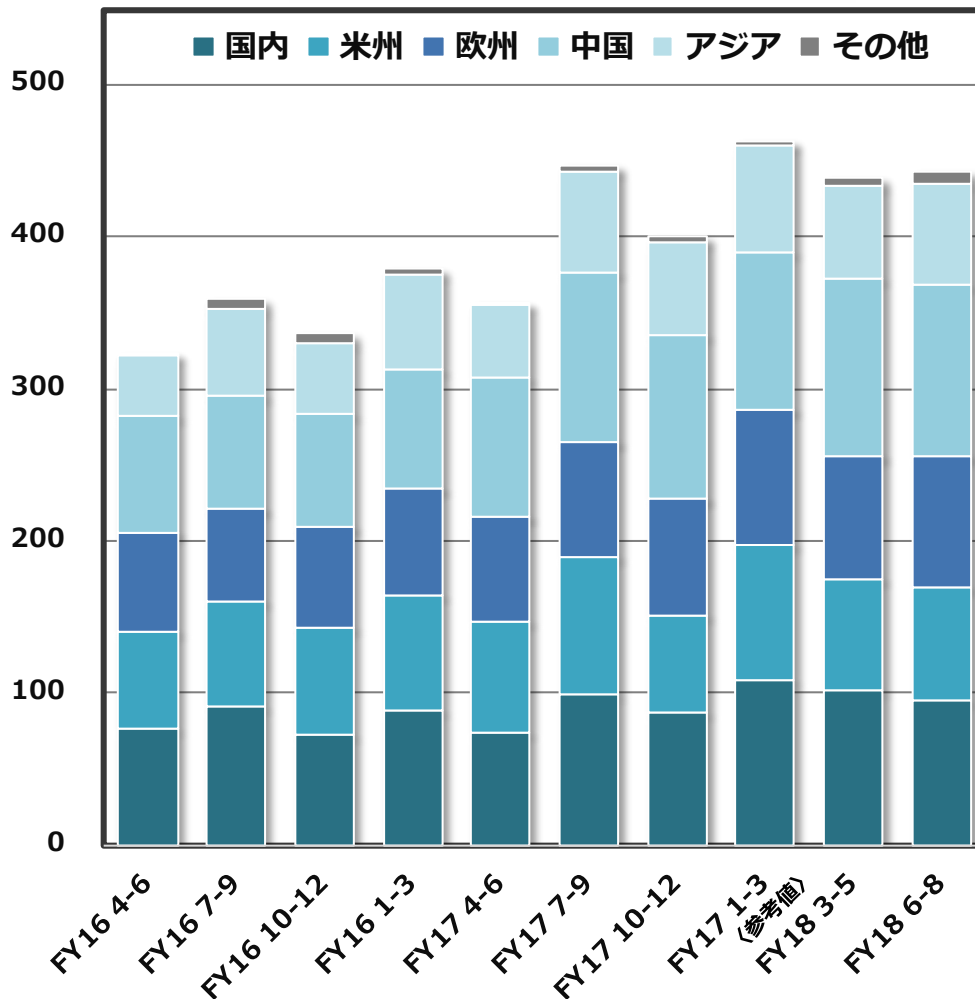
モーションコントロール

(億円)



ロボット

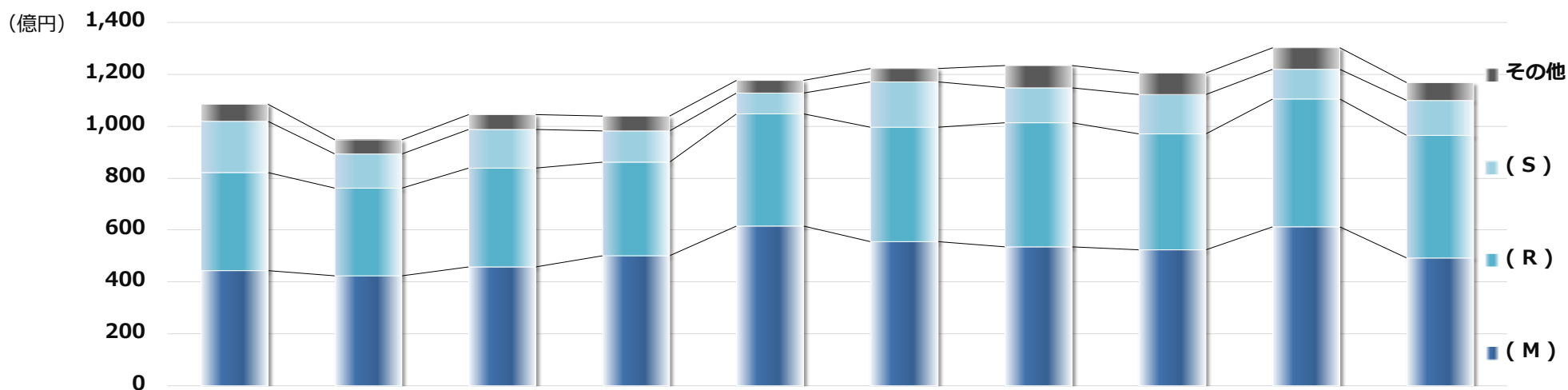
(億円)



[注] FY2017 1-3月期のデータは、対象期間を2017年12月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

四半期連結受注推移（セグメント別）

※為替は期中平均レートを使用



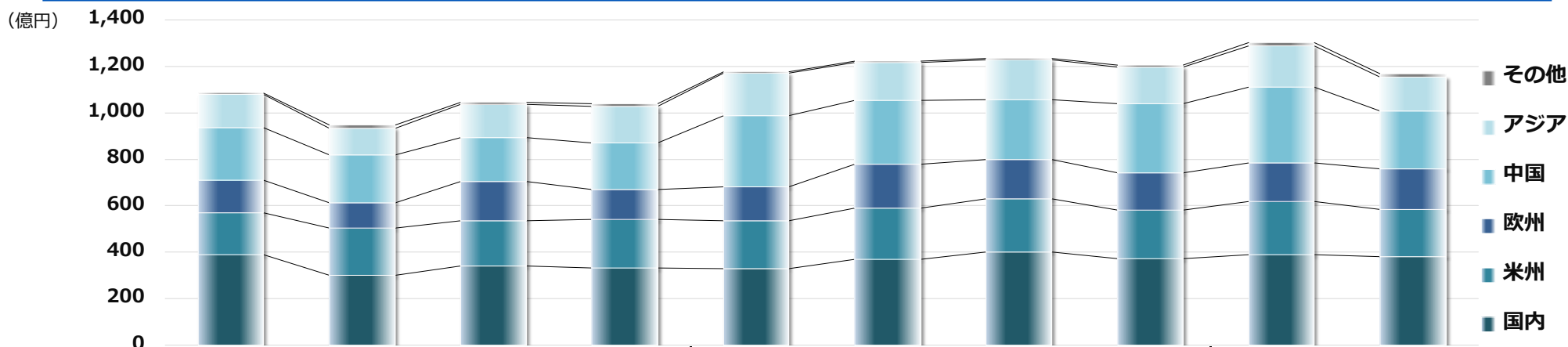
FY2016						FY2017				FY2018	
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 《参考値》	3-5月期	6-8月期
全社	YoY	▲1%	▲8%	▲2%	+13%	+8%	+29%	+18%	+16%	+10%	▲4%
	QoQ	+18%	▲13%	+10%	▲1%	+13%	+4%	+1%	▲2%	+8%	▲10%
YoY	(M)	▲12%	▲12%	+5%	+17%	+39%	+31%	+17%	+5%	▲1%	▲11%
	(R)	▲9%	▲11%	+5%	+7%	+14%	+31%	+25%	+24%	+15%	+7%
	(S)	+106%	+31%	▲24%	+43%	▲59%	+33%	▲10%	+24%	+42%	▲24%
QoQ	(M)	+3%	▲4%	+8%	+9%	+23%	▲10%	▲3%	▲2%	+17%	▲19%
	(R)	+12%	▲11%	+13%	▲5%	+19%	+2%	+8%	▲6%	+11%	▲4%
	(S)	+134%	▲33%	+14%	▲20%	▲33%	+118%	▲23%	+11%	▲23%	+16%
為替 レート	円/ドル	110.8	103.5	104.8	114.5	111.9	111.1	112.2	110.7	107.8	110.8
	円/ユーロ	124.5	115.6	115.3	121.5	120.9	127.9	132.4	134.2	130.9	128.9

[注.1] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

[注.2] FY2017 1-3月期のデータは、対象期間を2017年12月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

四半期連結受注推移（仕向先別）

※為替は期中平均レートを使用



		FY2016				FY2017				FY2018	
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 〈参考値〉	3-5月期	6-8月期
全社	YoY	▲1%	▲8%	▲2%	+13%	+8%	+29%	+18%	+16%	+10%	▲4%
	QoQ	+18%	▲13%	+10%	▲1%	+13%	+4%	+1%	▲2%	+8%	▲10%
YoY	国内	+9%	▲15%	▲6%	+11%	▲15%	+23%	+18%	+12%	+18%	+4%
	米州	▲17%	▲1%	▲2%	+7%	+15%	+9%	+17%	+0%	+11%	▲10%
	欧州	▲3%	▲18%	+2%	+6%	+2%	+73%	▲0%	+25%	+16%	▲6%
	中国	+10%	▲2%	▲12%	+21%	+36%	+34%	+38%	+47%	+6%	▲9%
	アジア	▲13%	▲10%	+17%	+15%	+27%	+40%	+20%	+1%	▲2%	▲11%
QoQ	国内	+29%	▲23%	+14%	▲2%	▲1%	+12%	+9%	▲7%	+4%	▲2%
	米州	▲8%	+14%	▲5%	+7%	▲1%	+8%	+2%	▲8%	+10%	▲12%
	欧州	+17%	▲23%	+58%	▲25%	+13%	+30%	▲9%	▲6%	+5%	+5%
	中国	+37%	▲9%	▲9%	+7%	+53%	▲11%	▲6%	+15%	+10%	▲24%
	アジア	+4%	▲19%	+23%	+10%	+15%	▲10%	+5%	▲7%	+12%	▲18%

[注] FY2017 1-3月期のデータは、対象期間を2017年12月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

主要生産拠点



YASKAWA